

## 霧島新燃岳からの二酸化硫黄放出率

2008年09月01日と02日にCOMPUSSを用いた二酸化硫黄放出率の計測を霧島新燃岳の周辺部で行い、約50 ton/dayの放出率値を得た。

9月1日は霧島道路を車で走行したトラバース法、9月2日は夷守台展望所からのパンニング法である。トラバースルート（赤線）及びパンニング法の観測点（青丸）を図1に示す。9月1日の噴煙は新燃岳の北北西方向、9月2日は東方向へと流下していた。

9/1は天候の悪化のため計測は1回、9/2は風向の変化の影響で、解析できたのは9回である。風速は溝辺アメダス観測点のデータを用いた（9/1：4 m/sec、9/2：3 m/sec）。

両日の二酸化硫黄放出率の平均は、

**9/1: 24 ton/day**

**9/2: 52 ton/day**

となった。9/1は計測時における紫外光強度の変化が大きく、測定精度は9/2の方が高い。

図2にエラーバー（測定中の最大値と最小値）と共に今回の計測結果を示す。

尚、2008年以前に行われた霧島新燃岳における二酸化硫黄放出率の測定として、1977年1月7日に0.5 ton/day以下（パンニング法）、1982年3月14日に10 ton/day以下（トラバース法）が鎌田・他（1986）によって報告されている。

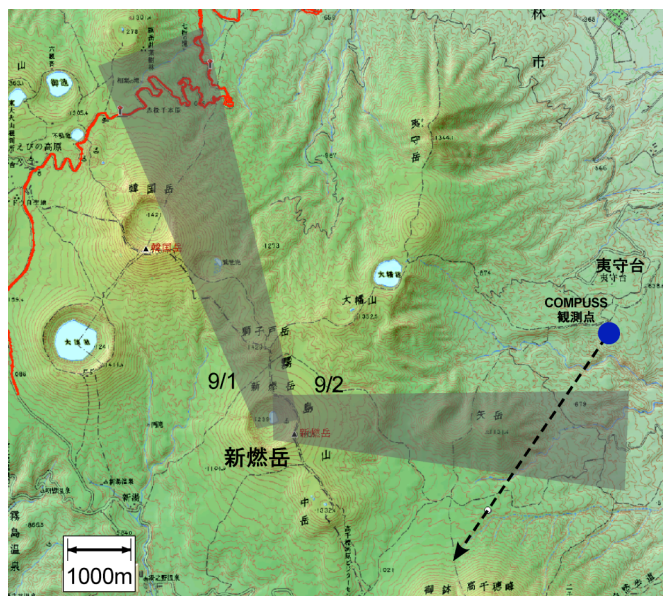


図1 トラバースルート及びパンニング法観測点とそれぞれの日の噴煙流下方向。地形図は国土地理院発行5万分の1地形図「霧島山」を使用。

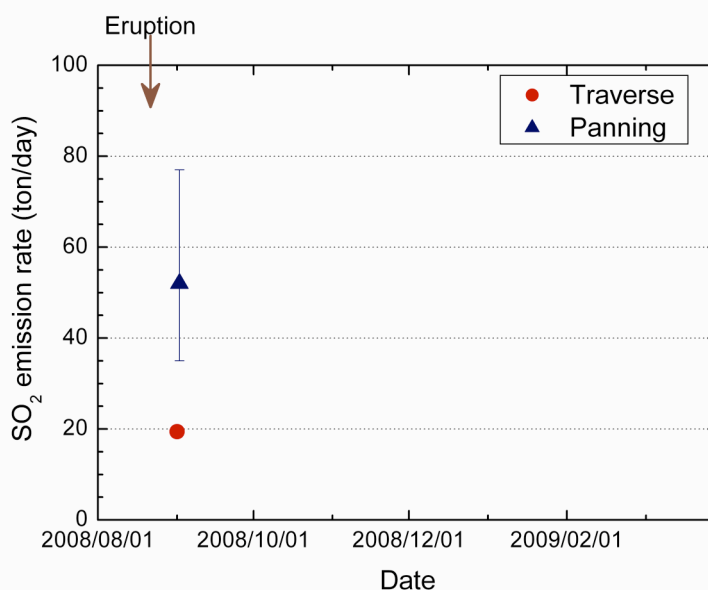


図2 霧島新燃岳からの二酸化硫黄放出率